

# 国土技術政策総合研究所

## 講演会 ー平成14年度ー

日 時 平成14年12月11日（水）10:30～17:05

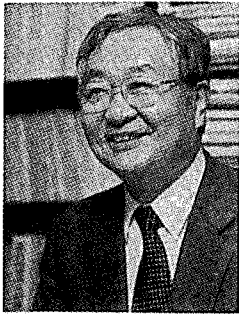
場 所 イイノホール

主 催 国土交通省 国土技術政策総合研究所  
協 賛 国土技術研究協議会



# プログラム

10:30~10:40	開会の挨拶	所 長 奥野 晴彦
10:40~11:20	公共投資を考える視点	研究総務官 高須 修二
11:20~12:00	最近の洪水事例と対策等について —ヨーロッパの洪水情報を含めて—	河川研究部長 近藤 悟
12:00~13:00	休 憩	
13:00~13:40	マンションの円滑な建替えに向けて —建替え円滑化法の制定と技術指針の開発—	住宅計画研究室長 亀村 幸泰
13:40~14:20	道路技術がめざすもの —技術開発の現状と道路行政転換のための展望—	道路研究部長 中村 俊行
14:20~14:40	休 憩	
14:40~16:00	土木・建築における技術基準の動向と展望	建築研究部長 平野 吉信 港湾研究部長 山本 修司 評価研究官 西川 和廣
16:00~17:00	特別講演 失敗学のすすめ	工学院大学国際基礎工学科・教授 東京大学名誉教授 畑村 洋太郎
17:00~17:05	閉会の挨拶	副 所 長 村上 純一



失敗学のすすめ

工学院大学国際基礎工学科・教授  
 東京大学名誉教授

畑村 洋太郎

思いもかけない失敗が多発している。これは失敗のマイナス面ばかりを見ているためではなかろうか。人は誰でも新しいことに挑戦すれば必ず失敗する。技術の世界にもこのことはあてはまり、失敗を分析し、新しい知識を樹立することによって新しい技術が生まれ、社会を豊かにしてきた。このように失敗のマイナス面だけに目を向けるのではなく、失敗をプラスに転化するための考え方と方法を取り扱うのが「失敗学」であり、そこでは、失敗の必要性・失敗の原因と結果の関係・失敗を生かす工夫などについて具体的な例を取り上げながら学んでゆく。

- 主 な 経 歴
- 1941年 東京生まれ
  - 1966年 東京大学大学院修士課程修了、(株)日立製作所入社
  - 1968年 東京大学工学部助手
  - 1969年 同講師
  - 1973年 同助教授
  - 1983年 同教授
  - 2001年 4月 工学院大学国際基礎工学科教授、畑村創造工学研究所開設
  - 2001年 5月 東京大学名誉教授
  - 2001年10月～2002年 3月 東北大学客員教授
  - 2001年 8月 科学技術振興事業団失敗知識データベース整備事業統括
  - 2001年11月 宇宙開発事業団客員開発部員
  - 2002年 4月 東北大学講師

専 門 分 野

ナノ・マイクロ加工、医学支援工学、創造的設計の方法を研究するほか、失敗知識活用研究会を通じて失敗学の構築を行っている。また、実際の設計研究会を主宰し創造設計原理の研究を行っている。

主な編・著・訳書

実際の設計、続・実際の設計、続々・実際の設計—失敗に学ぶ—、TRIZ入門、実際の情報機器技術、設計のナレッジマネジメント（以上 日刊工業新聞社）、設計の原理（訳書、朝倉書店）、設計の方法論（岩波書店）、失敗学のすすめ（講談社、日経BP・BizTech図書賞受賞（2000年10月30日））、機械創造学（丸善）、失敗を絶対成功に変える技術（アスキー）、子どものための失敗学（講談社）、失敗の哲学（日本実業出版社）、失敗を生かす仕事術（講談社現代新書）、社長のための失敗学（日本実業出版社）、決定版失敗学の法則（文藝春秋）、成功にはわけがある（監修、朝日新聞社） 他多数



## 公共投資を考える視点

研究総務官 高須 修二

最近の厳しい経済情勢の中で、公共投資のあり方について多くの議論がなされている。これらの議論は、公共投資を取り巻く状況を多面的に捉え、適正に評価することによって、有意義なものとなる。

言うまでもなく、我が国の社会資本は戦後着実に整備されてきているが、自然条件の厳しい日本の国土にあって、必要な社会資本の分野は広く、欧米諸国に比べてその水準が未だ低い分野も多い。また、戦後急速に整備され長期に活用されてきた社会資本も、更新時期を迎えようとしており、的確な対応が求められている。また、社会資本は、その時々々の社会システムに応じて整備されるべきものであるが、一方では、次の時代の反映の礎となっていることも多い。公共投資のあり方を考えていくためには、このような社会資本の状況を踏まえることが重要である。

本講演では、社会資本の蓄積、社会資本の維持・更新、自然条件、国土形成史、コスト縮減等の視点から、その背景を論じ、今後の議論の糧としたいと考える。



## 最近の洪水事例と対策等について —ヨーロッパの洪水情報を含めて—

河川研究部長 近藤 悟

近年、日本ではこれまで経験したことのないような豪雨による水害が発生している。温暖化による洪水多発の危険性が懸念されている一方、人工衛星等を用いた気象データの全球観測により地球的規模の気象現象の解明が進むとともに、気象予報の精度の向上が期待されている。本稿では、東海豪雨洪水や福岡洪水等を事例とし、これらの水害の概要や原因等について述べ、この様な洪水を踏まえた対策や的確な予警報が重要であること、このための難破堤堤防などに関する研究成果、さらには都市における地下街の浸水対策に関する研究成果等を報告するとともに、気象予報の精度の向上を踏まえた研究の一方向性を紹介する。

最後に、今年8月に発生したヨーロッパの洪水状況の概要を速報し、アジア地域との違いを踏まえその意味合いを紹介する。

## 土木・建築における技術基準の動向と展望

建築研究部長  
平野 吉信港湾研究部長  
山本 修司評価研究官  
西川 和廣

土木・建築における各種の技術基準、例えば各種土木施設の構造基準、設計・施工基準や建築基準等は、本来の施設・建築の安全性や目的に応じた機能を確保するための役割に加え、品質・信頼性の向上や、生産性向上やコスト合理化のための各種革新技術の受入れ、海外との通商や技術の流通の円滑化等のため、妥当性の確認や見直し、状況に応じた改訂等への確に取り組むことが求められているといえる。特に近年、国際的調和への対応やいわゆる性能規定化に向けた見直しの必要性が指摘され、分野によってはその具体化が図られはじめている。

本講演では、技術政策研究の立場から、技術基準の見直しのニーズや必要性、性能指向の技術基準の本質、EUROCODEを含む建設基準の国際的調和の欧州に見る動向、ISO等を通じた基準・規格の国際的調和の意義と問題点、港湾構造物の技術基準の国際化に関する動向、道路構造物の性能設計実施へのアプローチ等を概観するとともに、今後の方向性について展望する。



マンションの円滑な建替えに向けて  
 —建替え円滑化法の制定と技術指針の開発—

住宅計画研究室長 亀村 幸泰

建築後30年を経過したマンションは、10年後には93万戸と今後急激に増加することが予想されており、老朽化したマンションの建替えが進まないという問題を解決し、建替えを円滑化することが緊急の課題となっている。

本講演においては、平成13年度までに実施したプロジェクト研究「マンション問題に対する総合的技術政策の研究」に関して、マンションの建替えの諸課題についての調査研究成果を解説するとともに、本年6月に制定された「マンションの建替えの円滑化等に関する法律」への反映状況や、法律の施行を支援する技術情報として研究開発した建替え改修判断指針、合意形成・事業マニュアル等について報告する。



道路技術がめざすもの  
 —技術開発の現状と道路行政転換のための展望—

道路研究部長 中村 俊行

新たな技術の開発が新たな時代を生み、新技術を生かすことによってより豊かな生活を実現してきた。道路に関しても、新たな時代のニーズを踏まえた技術開発が、社会の要請に応える道路整備を牽引してきたと言っても過言ではない。しかしながら、戦後の社会経済システムの改革が求められている現在、道路行政においても「量的拡大」から利用者の側から見た「成果」を重視するなど大きく転換しようとしている。

本講演では、平成10年度から推進されてきている「新道路技術五箇年計画」の進捗状況について報告するとともに、道路行政システムの変革や活力・暮らし・安全・環境などの新たな道路政策目標を達成するための今後の道路技術の方向について展望する。